

# アートになった 猫たち展

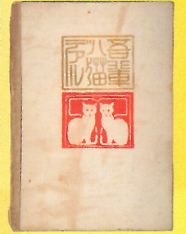
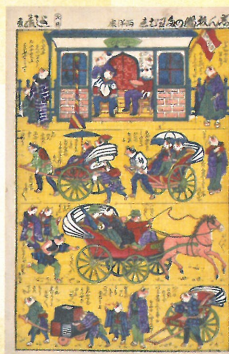
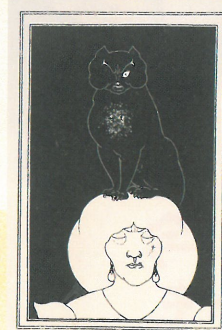
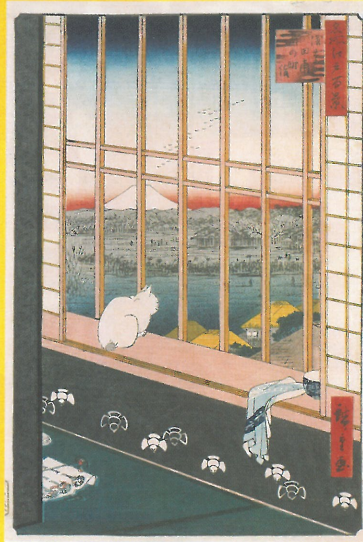
## 今も昔も猫が好き

猫の文房具に、猫のゲーム、猫ブログなど、見まわすと巷には猫グッズがあふれ、今、空前の猫ブームを迎えていると言われますが、200年も前の江戸時代から猫ブームは存在していました。

猫が海を越えて日本にやってきたのは奈良時代と言われます。その後、天皇や貴族階級のペットとして紐でつながれて飼われていましたが、江戸時代初期に猫は人々にとって身近なものになり、庶民の日常生活に溶け込んでいきました。

幕末に猫好きで知られる歌川国芳とその弟子たちの活躍で、猫は時に愛らしく、時に気高く神秘的な姿で美人画や戯画に登場し、女性と戯れる猫、踊る猫、芸をする猫、猫顔で人気役者になりきる愛嬌たっぷりの姿、恐ろしげな化け猫も頭に手ぬぐいを被って踊るユーモラスな姿で描かれるなど、江戸の庶民に広く親しまれました。また、近代絵画では竹久夢二、藤田嗣治、水野年方、海外ではピアズリーをはじめとするアールヌーボーの画家たちが自らの作品に猫のモチーフを取り入れました。

本展では、浮世絵蒐集家として著名な中右瑛氏が長年にわたり蒐集した浮世絵から近代絵画、現代アート、海外作家にいたるまで幅広くアートに登場する猫たちを紹介し、人々を惹きつけてやまない猫たちと人間との深い関わりをお楽しみいただけます。



1. 歌川広重《名所江戸古景 浅草田圃西の町詣》1857年  
2. 竹久夢二《黒猫を抱く女》(柳屋版) 1920年  
3. 大野隆司《しっぽのない猫たち》1999年  
4. 小林清親《猫と提灯》1877年  
5. 正木卓《楽団の猫》2016年

6. 宇田川民生《微笑み返し》2007年  
7. 夏目漱石《吾輩ハ猫デアル》上編 初版(装丁 橋口五葉)1905年発行  
8. 三代歌川豊国《古猫の怪》1861年  
9. オープリー・ウィンセント・ピアズリー《黒猫》1894年頃  
10. 歌川芳藤《志ん板猫のたわむれ 西洋床》1868~87年頃

### 関連イベント

#### 美術講演会 「黒猫奇譚 今も昔も猫好きな芸術家たち ~夢二・漱石から国芳まで~」

日 時:10月12日(土) 午後2時~(開場:1時30分~)  
講 師:中右瑛(国際浮世絵学会常任理事)  
場 所:美術館研修室  
定 員:60名(申込不要 先着順)  
参加料:美術館入館料に含む

#### 美術館で遊ぼう! 動くネコの絵をつくろう!

日 時:10月19日(土)  
午前10時~12時・午後1時~4時  
場 所:美術館研修室  
参加料:無料(申込不要 一部有料)

#### 中学生によるアートレクチャー

日 時:11月2日(土) 午前10時~午後2時~  
場 所:美術館展示室  
参加料:美術館入館料に含む

#### ダンボール猫をつくろう

日 時:11月16日(土) 午前10時~午後4時  
昼食は各自ご用意ください。  
講 師:本杉琉(現代美術作家)  
場 所:美術館研修室  
定 員:20名  
(受付:11月1日(金)午前9時30分~  
定員になり次第締切)  
参加料:100円(別途入館料がかかります)



### 交通のご案内

●電車・バス JR中央線 甲府駅下車(バス利用35分)  
山梨交通バスターミナル  
西野経由小笠原下仲町行き「市立美術館」下車  
十五所経由鯉沢営業所行き「戸田町」下車 徒歩10分

●自動車 県道42号線沿い  
中央自動車道 甲府昭和I.C.より20分  
中部横断自動車道 白根I.C.・南アルプスI.C.より5分

美術館公式HPはこちら  
<https://www.minamialps-museum.jp/>



美術館公式facebookはこちら  
<https://www.facebook.com/235851723615051>



南アルプス市立美術館  
MINAMI ALPS CITY MUSEUM OF ART

〒400-0306  
山梨県南アルプス市小笠原1281  
TEL 055-282-6600 FAX 055-282-6601